

グラビア	地域を支える人 工藤庄吾さん・宮崎県日之影町	1
発掘!地域の希望のタネ	〈紅花〉山形県白鷹町	5
用務員にお任せ!	用務員が要務員であるために! —東京都本部町田市職労	赤池智範 6
書評	ジーン・シャープ 著『独裁体制から民主主義へ』	菅原敏夫 8
焦点	適正な取引の推進に向けて	善明岳大 10

特集

政治を動かすために

インタビュー	参議院選挙で問われるもの —日本の民主主義を守るために	中北浩爾+ 氷室佐由里 16
	若い世代が政治に何を望むのか	奥野華子 26
	女性の意見を十全に反映できない政治の課題と 政治分野における男女共同参画推進法	大澤貴美子 33
	「液体民主主義」とその課題 —ネット投票を考える	五野井郁夫 41
	日本における気候市民会議の挑戦 —地域から「気候民主主義」の芽を育てる	三上直之 50
短期連載	東京オリパラ2020と自治体の現場⑤ オリパラのレガシーを次代に継承する —東京2020大会と調布市の取り組み	小柳邦法 59
各県自治研活動レポート	県本部衛生医療評議会の取り組みについて —鳥取県本部	檀田範道 68
連載	静岡自治研だもんで!④ 静岡で平和問題を考えよう!	渡邊敏明 70
	自治体の雑誌案内	67
	次号予告・編集部から	72



『独裁体制から民主主義へ』

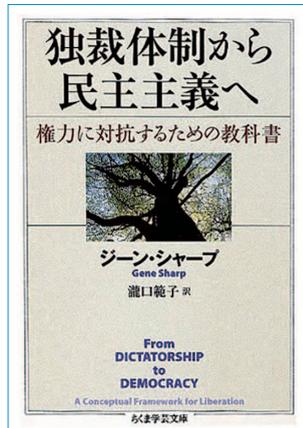
権力に対抗するための教科書

ちくま学芸文庫、一〇四五円

ジーン・シャープ 著 瀧口範子訳

非暴力闘争

ロシアによるウクライナ侵攻をまのあたりにして本書を読み始めた。暴力によらない闘争、軍備によらない防衛を説く侵略と戦争そのものが起こっているのに、随分悠長な話ではないか。しかし、現時点でも、国際社会は、市民の犠牲をできるだけ小さくする方策を考えるべきだ。戦



争を煽ること、ゲリラ戦を称賛することは犠牲を大きくする。NATOは抑止力にならなかった。

ウクライナ情勢は、自由主義陣営と全体主義陣営の最終戦争のように見えるが、国の内外で市民を殺す独裁体制の引き起こす紛争が重なって見える。だからいつも起こり、どこでも起こる。市民を殺さないで決心した民主主義以外に防ぐ手段がない。

自発的隷従

ただし、現在の独裁体制は「進んで」いる。選挙で選ばれ、国民は自発的に隷従する。

本書は、独裁体制と（非暴力闘争によって）闘う具体的方法を列挙した教科書である。巻末には一九八〇の方法が示されている。それは、理屈で生み出されたものではなく、アリストテレスから今日に至るまで、政治学の全歴史経験が参照されている。

読者には、本書とあわせて、同じ著者の『市民力による防衛』（法政大学出版局、二〇一六）を読むことをお勧めする。こちらには、超大国の軍隊の侵略（領土の拡張、集団殺害といった目的を持つこともある）に対する「市民力による防衛」も扱っている。

敗戦後七七年

明治維新から敗戦までが七七年、敗戦から今年までがちょうど七七年。ナチズム、ファシズム、大日本帝国主義に象徴される独裁体制と、曲がりなりにも戦後民主主義の時間が今年ちょうど拮抗した。そして今、民主主義から戦争と独裁の時代が始まりそうな予感がするのは考えすぎだろうか。

本書の印刷には少し厚手の紙が使われている。書齋で手に取るのではなく、外で、作戦と戦略を考えながら読むように造本されているのかもしれない。

評者 菅原敏夫 本誌編集委員